

所属 グローバル・コミュニケーション学部		職名 教授	氏名 福本 明子	学位 Ph.D. in Communication	兼担している研究科 グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科
研究分野 文学、言語学およびその関連分野、社会学およびその関連分野			研究分野のキーワード 外国語教育関連、地域研究関連、ジェンダー関連		
学歴					
1992年05月	University of Wisconsin-Madison, Exchange program (1991.8-1992.5)				
1993年03月	南山大学外国語学部英米科 卒業				
1999年05月	The University of New Mexico, Department of Communication 修了 (MA in Communication)				
2003年05月	The University of New Mexico, Department of Communication 修了 (Ph.D. in Communication)				
職歴					
2004年04月	愛知淑徳大学 ビジネス学部 着任				
2016年04月	愛知淑徳大学 グローバル・コミュニケーション学部 着任				
研究活動					
著書(CD・DVD等を含む)・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当箇所・該当頁数
著書(CD・DVD等を含む)					
改訂版 グローバル社会のコミュニケーション学入門	共著	2024年09月	ひつじ書房	編著者：藤巻光浩、宮崎新、著者：佐藤良子、田島慎朗、平田亜紀、福本明子、宮脇・山田かおり、森泉哲	82頁～85頁，86頁～89頁，94頁～97頁，102頁～103頁，192頁～195頁，196頁～199頁，200頁～203頁，212頁～227頁
学術論文					
中学校英語教科書における英語母語話者と日本人学習者の表象	共著	2022年03月	日本メディア英語学会 Media, English and Communication 12	石原知英・井上 彩・樺木勇作・石上文正・関根紳太郎・福本明子・宮原 淳	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
令和日本のリテラシーの模索——いかに情報を読み，声を足すことができるのか	単著	2023年03月	日本コミュニケーション学会 日本コミュニケーション研究 51		51頁～57頁
コミュニケーション学の視点から見たCOIL（オンライン国際協働学習）の一考察：台日コミュニケーションプロジェクトを事例にして	共著	2023年06月	東海大学 多元文化交流 第15 号	佐藤良子・平田亜紀・宮崎新・福本明子	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
生成AIの利用に関する大学声明から見る学生像の表象—東京大学の声明を例にして—	共著	2024年09月	日本メディア英語学会 Media, English and Communication 14	宮原淳・福本明子・井上 彩・石原知英・樺木勇作	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
EUのAI規制法に関する社説記事のディスコース分析	共著	2025年08月	日本メディア英語学会 Media, English and Communication in press	福本明子・石原知英・宮原淳・樺木勇作	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
学会発表					
「中学校英語教科書における英語母語話者と非英語母語話者の表象」メディア意識研究分科会	共同発表	2021年10月	日本メディア英語学会 第11回年次大会(オンライン)		
シンポジウム「危機とコミュニケーション」パネリスト	単独発表	2022年06月	日本コミュニケーション学会 第51回年次大会(オンライン)		
コミュニケーション学の視点から見たCOIL（オンライン国際協働学習）の一考察：台日コミュニケーションプロジェクトを事例にして	共同発表	2023年03月	2023 年東海大学日本語文化学系 30 周年国際学術研討會(東海大学（台中市）)		
生成 AI の利用に関する 声明から見る日本の大学の対応	共同発表	2023年10月	日本メディア英語学会 第14回年次大会(近畿大学)		
EUのAI法に関する社説記事のディスコース分析	共同発表	2024年10月	日本メディア英語学会 第14 回年次大会(お茶の水大学)		

企画セッション「わたしたちが大切にしているもの」	共同発表	2026年06月	日本コミュニケーション学会 第55回年次大会(二松学舎大学)		
作品・制作等					
その他業績					
【書評】ローゼンバーグ, B. マーシャル (2012) 『NVC人と人との関係に命を吹き込む 法・新版』安 納 献 (監 訳)・小 川 敏 子 (訳) 日本経済新聞出版社	単独	2021年10月	日本コミュニケーション学会 中部支部 ニューズレター第11号		10～11頁
ニュースレター寄稿「私にとってコミュニケーション学とは」	共同	2024年05月	日本コミュニケーション学会	編者：今井達也	4～5頁
学会等における主な活動					
受賞					
1997年	ロータリー奨学金受給				
2002年	ニューメキシコ大学 Dean ' s Dissertation Fellowship (博士論文奨学金) 受給				
所属学会					
1999年09月～2017年09月	National Communication Association会員			2010年08月～2012年08月 JUCA理事補佐	
2003年12月～現在	日本コミュニケーション学会			2010年06月～2014年05月 中部支部長 2012年06月～2023年06月 査読委員 2014年06月～現在 支部活動 運営委員	
2004年04月～2025年03月	SIETAR Japan会員			2006年04月～2007年03月 紀要査読委員	
2005年05月～現在	日本英語メディア学会 (～2010 時事英語学会)			2010年04月～2017年03月 支部活動補佐 2014年04月～2014年10月 年次大会実行委員 2016年10月～2018年10月 理事 (夏季セミナー担当) 2018年10月～2020年09月 理事 (広報担当) 2021年03月～現在 紀要査読委員	
社会活動					
教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)					
各授業で、学生の発言やグループワークが多くなるように工夫		2004年04月01日～現在		・「英語プレゼンテーション」「交渉術・ディベート」では、全員に予習課題のまとめを授業のはじめに発表・提出させることにより、予習を定着させ、考えを事前にまとめ、授業中に発話するパターンを定着させた。 ・「異文化トレーニング」「交渉術・ディベート」「異文化コミュニケーション・II」では、履修学生数の関係で、グループワークを多く取り入れ、グループで課題の議論・発表を1ヶ月に数回取り入れた。 ・全てのクラスで、授業中に学生を出来る限り多く指名し、発話の機会を設けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
授業「アクティブラーニング入門」「ICPベーシック」の授業資料、ティーチング・マニュアル作成		2016年04月～2022年07月		授業で用いる資料、講義計画の蓄積と修正	
授業「Introduction to Communication」「[Introduction to Communication Studies」の授業資料、ティーチング・マニュアル作成		2016年09月～現在		授業で用いる資料、講義計画の蓄積と修正	
授業「Seminar 1」～「Seminar 11」の授業資料、ティーチング・マニュアル作成		2017年04月～現在		授業で用いる資料、講義計画の蓄積と修正	
授業「Intercultural Training」の授業資料、ティーチング・マニュアル作成		2017年04月01日～2025年06月15日		授業で用いる資料、講義計画の蓄積と修正	
授業「Conflict Management and Negotiation」「Negotiation」の授業資料、ティーチング・マニュアル作成		2018年09月20日～現在		授業で用いる資料、講義計画の蓄積と修正	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
放送大学「異文化コミュニケーション」		2021年04月		面接授業 4月17日、18日 (2日間)	

放送大学「異文化コミュニケーション」	2022年04月	面接授業 4月17日、24日（2日間）
放送大学「異文化コミュニケーション」	2023年04月16日	面接授業 4月16日、23日（2日間）
4 その他教育活動上特記すべき事項		
5 大学運営		
全学英語教育運営委員（2024-2025主任）	2004年04月 ～ 現在	
グローバル・コミュニケーション学部 教務委員	2016年04月 ～ 2024年03月	
国際交流センター センター長	2018年04月 ～ 2024年03月	
ジェンダー・女性学研究所 運営委員(2回目)	2021年04月 ～ 2024年03月	
入試実施委員(2回目)	2024年04月 ～ 現在	
教務委員長	2025年08月 ～ 現在	
V 資格・免許、特許等		
資格・免許		
特許等		